

地域・保護者・学校関係者への教育長メッセージ ②9
『校長先生方と面談』

コロナ第七波がピークを迎えています。津島市でも毎日百人を越える方が感染し、小・中学校は大変な状況となってきました。幸いにも夏休みとなり、学校が感染の場にはなっていません。それでも身近な方の感染が増え、子どもたちも保護者の皆さんも心を痛められている事と思います。本当にいつになったらコロナは収束するのでしょうか。ポストコロナはいつ来るのでしょうか。

夏休みに入ったばかりの3日間、市内の校長先生方と膝を交えて面談を行いました。校内で行っている教職員との面談を受け、話をうかがいました。7月までの各学校の状況と課題についてうかがうことができました。

- 全国学力学習状況調査をもとに子どもたちの学びの保障をしていきたい。
- 子どもたちの心の闇についてしっかり話を聴く。あわせて保護者の皆さんの思いも受け止めねばならない。
- 先生方のメンタルヘルスの時間を確保し、日頃から声掛けを大切に行う。心が疲れている先生方は、休憩をとるようにする。
- 若手教職員の思いや悩みを聞く機会を設ける。
- 漏水や大雨による浸水など水のトラブルに気をつける。
- 管理職がコミュニティースクールの進め方について暗中模索している。

5月の教育委員さんとの懇談では、ヤングケアラーが話題となりました。ご存知のようにヤングケアラーとは、小・中学生の子どもたちが、日常的に家事や家族の世話をすることです。「親孝行」という道徳的な目標を越えている状況を言います。教頭先生にうかがったところ、そのような状況の子どもたちを見受けるとの事でした。早速子どもたちについて詳しく調べていただきました。

6月の懇談は、名古屋領事館を窓口とした国際交流活動についてどのようなアプローチの仕方があるかご意見をうかがいました。

夏休みを直前にした7月の懇談では、宿題（家庭学習）が話題となりました。「宿題」を「なし」にすると家庭での学習習慣がつかない、反復練習を必要とする漢字や計算を宿題とすべきという意見が出ました。一方で「自主勉強」とか「何でもノート」のように好きな事、調べたい事をとことん学習する宿題も良いのではないかという意見が出ました。

戻り梅雨カバンに付けし守り札
多度山に雲流れゆく蓮見会
炎天や路傍にならぶ六地藏

令和4年8月8日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視